

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 5 月 6 日 (2021.5.6)

【公表番号】特表 2020-515581 (P2020-515581A)

【公表日】令和 2 年 5 月 28 日 (2020.5.28)

【年通号数】公開・登録公報 2020-021

【出願番号】特願 2019-553220 (P2019-553220)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/506 (2006.01)

A 6 1 K 31/5025 (2006.01)

A 6 1 K 35/17 (2015.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/06 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 5/0783 (2010.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 31/00 Z N A

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 31/506

A 6 1 K 31/5025

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 K 35/17 Z

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 45/06

C 1 2 N 5/10

C 1 2 N 5/0783

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 26 日 (2021.3.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヒトである対象にて T 細胞の疲弊を防ぐ及び / または元に戻す方法であって、前記方法が治療上有効な量のチロシンキナーゼ阻害剤を前記対象に投与することを含み、前記チロシンキナーゼ阻害剤が T C R のシグナル伝達及び / または C A R のシグナル伝達を阻害す

る方法。

【請求項 2】

前記チロシンキナーゼ阻害剤が L c k 阻害剤である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がダサチニブまたはボナチニブである請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記投与することにより、

前記対象にて T 細胞による I L - 2 の分泌を高めること

前記対象にて T 細胞のアポトーシスを減少させること

P D - 1、T I M - 3 及び L A G - 3 から成る群から選択される少なくとも 1 つの T 細胞の疲弊マーカーの発現を低下させること、及び

C D 6 2 L または C C R 7 の発現を高めること

のうちの 1 つ以上が生じる請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記チロシンキナーゼ阻害剤が複数サイクルで投与され、且つ / または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が予防的に投与され、且つ / または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が間欠的に投与され、且つ / または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が少なくとも部分的な T 細胞機能を回復させるのに十分な期間投与され、その後中止され、且つ / または

前記チロシンキナーゼ阻害剤が経口で投与される請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記対象が慢性感染症またはがんを有する請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

遺伝子操作した T 細胞の集団を含む組成物であって、前記遺伝子操作した T 細胞の集団がチロシンキナーゼ阻害剤の存在下で増殖され、前記チロシンキナーゼ阻害剤が T C R のシグナル伝達及び / または C A R のシグナル伝達を阻害する組成物。

【請求項 8】

前記チロシンキナーゼ阻害剤が L c k 阻害剤である請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がダサチニブまたはボナチニブである請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記遺伝子操作した T 細胞の集団が、C A R T 細胞の集団、遺伝子操作した T C R を発現する T 細胞の集団、腫瘍浸潤リンパ球 (T I L) 療法のために構成された遺伝子操作した T 細胞の集団、形質導入 T 細胞療法のために構成された遺伝子操作した T 細胞の集団、及び / または T C R もしくは C A R で再操作されたウイルス特異的な T 細胞の集団から選択される請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 11】

免疫系に関連する状態または疾患を治療する方法であって、チロシンキナーゼ阻害剤の存在下で増殖させた遺伝子操作した T 細胞の集団をヒトである対象に投与することを含み、前記チロシンキナーゼ阻害剤は T C R のシグナル伝達及び / または C A R のシグナル伝達を阻害し、前記遺伝子操作した T 細胞の集団は、C A R T 細胞の集団、遺伝子操作した T C R を発現する T 細胞の集団、腫瘍浸潤リンパ球 (T I L) 療法のために構成された遺伝子操作した T 細胞の集団、形質導入 T 細胞療法のために構成された遺伝子操作した T 細胞の集団、及び / または T C R もしくは C A R で再操作されたウイルス特異的な T 細胞の集団から選択され、前記免疫系に関連する状態または疾患ががんまたは自己免疫の疾患もしくは状態から選択される方法。

【請求項 12】

前記チロシンキナーゼ阻害剤が L c k 阻害剤である請求項 11 に記載の方法。

【請求項 1 3】

前記チロシンキナーゼ阻害剤がダサチニブまたはボナチニブである請求項 1 2 に記載の方法。

【請求項 1 4】

前記対象が養子 T 細胞療法を受けている請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 1 5】

前記対象に、化学療法剤及び放射線療法から選択される 1 以上の抗がん剤を投与することをさらに含む請求項 1 1 に記載の方法。